

独断

注目商品

REVIEW

受粉・受精しなくても果実ができる 単為結果性で作業を大幅に省力化

野菜種子
5 パルト



希望小売価格：(1,000粒) 25,830円 (税込)

■お問い合わせ
株式会社サカタのタネ
〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 2-7-1
TEL：045-945-8802 FAX：045-945-8803
<http://www.sakataseed.co.jp>

「単為結果」とは受粉・受精しなくても果実ができるという性質のことだ。何といても、長所は着果処理が要らないことである。
トマトは自家受粉植物なので、自然の状態では風や昆虫によって受粉・受精する。だが、ハウスなどの施設内では強制的に振動を与えて受粉を助けないとなかなか着果が安定しないので、一般的に手作業によるホルモン処理やマルハナバチなどの花粉を媒介する昆虫の放飼によって行なわれている。

通常の大玉トマトに匹敵

今回紹介するのは、今年4月に(株)サカタのタネが発表した『パルト』という大玉トマトのF1品種。寒冷地の夏秋栽培のほか、関東に産地の多い早熟栽培にも向く。前述の着果処理がなくなれば、ホルモン処理やマルハナバチの飼養における10a当たり14〜15万円の経費や多大な労力が省けるという(農水省資料「品目別生産コスト縮減戦略」参照)。
これまでに開発された単為結果性

の品種には「ブークナファースト(1994年・愛知県農業試験場)」と「ルネッサンス(00年・同試験場)」と「ルネッサンス(00年・同試験場)」がある。栽培の省力化において注目を浴びたものの、果実がやわらかく、尻がとがりやすく、輸送しづらかった。採種が難しかったり、果実が小振りだったりといった理由で通常のトマトに取って代わるまでには至らなかった。

だが、パルトは1個当たりの重さが200g程度と通常の大玉トマトに匹敵し、果実は硬く果肉がしっとりしている。単為結果性のもともとの性質である糖度の上がりやすさもあり、食味は良好だ。

通常品種とは花が咲いた状態で比較すると分りやすい。通常は開花後に受粉・受精するので、この時点では肥大しない。一方、受粉・受精を必要としない単為結果性品種は開花時に、ガクと花びらに囲まれた中心部がすでに肥大している。

着果処理に代わって摘果が重要

管理作業に要する時間はトマト栽培にかかる作業全体の約1/3を占める。なかでもホルモン処理や、マルハナバチの世話やネット張りなどが省ければ、確実に作業は楽になる。

着果数が保証される代わりに重要になるのは、摘果作業である。目安は1段当たり4個。夏秋栽培では8段程度の収穫を見込める。

大面積栽培における作業手間の削減への貢献だけでなく、マルハナバチ飼養中には避けていた薬剤散布による防除も行なえる。また、節間が短いという特徴は、早熟栽培の狭いトンネルの中では有効だという。さらに、オランダ式の温度や二酸化炭素をコントロールした環境下で栽培すれば、多段になっても全体の高さは通常品種より低くなる。限られたスペースでの効率的な栽培にも期待が持てそうだ。(加藤祐子)



▲開花時の比較(右：通常品種、左：単為結果性品種「パルト」)。すでに果実部が肥大している。
▲着果している様子。着果数が保証される代わりに、摘果作業に集中できる。1段当たり4個残す。条件によるが、夏秋栽培での収穫は8段程度まで。

